



アジア経済研究所 学術リポジトリARRIDEの ご案内

村井友子

本稿では、去る2017年4月28日にリニューアル公開した「アジア経済研究所学術研究リポジトリ」(ARRIDE)をご紹介します。

●ARRIDEとは？

Academic Research Repository at the Institute of Developing Economies (ARRIDE)は、当研究所（以下、「アジ研」）の開発途上国・地域に関する研究成果を収集・保存し、世界に発信するシステム（機関リポジトリ）です。本システムは2006年に構築され、これまで当研究所の研究者が発表した論文を中心に収集・保存・公開してきました。リニューアル公開した新ARRIDEでは、特に以下の3点が拡充され、パワーアップしました。

●アジ研の研究成果にワンストップでアクセス

これまでアジ研の研究成果データベースは、先述のARRIDEに加えて、アジ研出版物の全文情報データベースであるAIDE (Archive of IDE Publications) と、アジア諸国の国別分析レポートを提供するアジア動向データベース（『アジア動向年報』ウェブ版）があり、3つの異なるデータベースで研究成果を分散管理していました。

今回のリニューアルでは、これらを統合してひとつのデータベースにまとめ、ARRIDEで一元管理する集中型に変更しました。これにより利用者は、アジ研がオンライン公開する全ての研究成果（ただし1990年以降に刊行されたものが中心）にひとつのプラットフォームでアクセスできるようになりました。

ARRIDEでは、雑誌は論文単位で、単行書は章単位で、各出版物を検索できるように情報を入力しており、合計1万8294件（2017年8月18日現在）の本文PDFが登録されています。

利用者は、ARRIDEの検索システムでタイトル、著者名、出版年などのキーワード検索や全文検索を行うことができるほか、インターフェース上に用意された

単行書・レポート ARRIDE (<https://ir.ide.go.jp/>)

ト類のシリーズ名・雑誌名の一覧から、関心ある出版物・論文にアクセスすることができます。

●定期刊行物の紙とインターネットの同時公開

さらに2017年度より、定期刊行物の収録記事が、紙媒体の刊行と同時に電子媒体でもARRIDEで即時無料公開され、最新記事を誰でも自由にオンラインで閲覧できるようになりました。

この定期刊行物のオープンアクセス化は、アジ研が2016年度に採択した、研究成果を原則として全てARRIDEに登録し、オープンアクセスで公開していくという方針（「アジア経済研究所オープンアクセスに関する規程」）に基づき、先行的に開始したものです。

●多様な学術情報検索サイトで研究成果にアクセス

新ARRIDEは、国立情報学研究所が提供するクラウド型の機関リポジトリ環境提供サービスJAIRO Cloudを利用して構築しています。

JAIRO Cloudは、日本の学術情報流通のハブ機能を果たす学術機関リポジトリデータベース（IRDB）にメタデータを提供しています。IRDBはアジ研を含む日本の大学・研究機関の機関リポジトリからメタデータを収集すると同時に、他の主要な学術情報検索サービスにメタデータを提供しています。

結果として、ARRIDEに登録された研究成果の情報は、IRDBを通じて、Google Scholar、JAIRO、CiNii Articles、国立国会図書館（NDL）サーチなどにも提供され、検索できるようになりました。

これに加え、アジ研では、研究成果のうちIDE Discussion Papersについて、経済学分野の重要な学術情報データベースであるRePEc (Research Papers in Economics) に独自にメタデータを提供しており、同データベースでの情報検索も可能となっています。

以上のように、今回のリニューアルで、アジ研の研究成果を一元管理するデータベースARRIDEが、オープンアクセスによる学術情報流通基盤のメインストリームに乗ったことで、アクセシビリティが格段に向上しました。アジ研は今後も、電子媒体での発信を主として研究成果のオープンアクセス化をさらに推進していく予定です。

（むらい ともこ／アジア経済研究所 図書館）